

授業科目 疫学・統計解析演習	科目概要・形式 2単位 60時間	配当年次 1年 後期
科目責任者	山田 真司	
担当者	山田 真司、大西 基喜、吉池 信男	
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p>地域、職域、学校、臨床などの場において、対象集団の特性を記述し、様々な因子（測定指標）相互の関連を量的に示すとともに、介入などの効果を検証するための手法を、講義・演習を通じて学びます。本科目は、①具体的な統計学的手法の修得、②既存データを用いた実際の解析、③研究実施に必要な調査票の作成・データ収集の制度管理・データマネジメント の3部で構成されます。</p>		
<p>2. 授業計画・内容</p> <p>Part I 【山田 真司】（1）～（10） 前半では数理統計の基本概念と枠組みをしっかりと学びます。迂遠に感じるかもしれませんがここでの理解は統計手法を理解するための大きな力になります。後半では統計ソフトウェアを使用しながら主要な統計手法を学びます。</p> <p>Part II 【大西基喜】（11）～（20） 地域の健康関連データ（国のさまざまな公表データや青森県健診・レセプトのダミーデータなど）を用いた各種解析を演習的に実施し、統計学的手法、結果の解釈・応用のスキルを修得します。</p> <p>Part III 【吉池信男】（21）～（30） 研究実施に必要な調査票の作成、データ収集時の精度管理、データマネジメント方法について、受講生の研究内容などを勘案しながら、実際の例を用いて演習を進めます。</p>		
<p>3. 教科書、参考書</p> <p>（参考書）川村 孝：臨床研究の教科書：研究デザインとデータ処理のポイント。医学書院, 2016 その他、適宜、紹介します。</p>		
<p>4. 成績評価方法</p> <p>出席状況、演習、プレゼンテーション、レポートなどを勘案して、総合的に評価します。</p>		
<p>5. 受講要件</p> <p>「統計学基礎」「疫学特論」（1年前期）の受講は必須条件ではありませんが、その内容がおおよそ理解できていることを前提とします。</p>		
<p>6. 社会人学生に対する配慮</p> <p>金曜日の夜から土・日曜日に出来るだけ集中して開講します。演習が中心となりますので、Web ラーニングシステムは使用しない予定です。</p>		
<p>7. その他</p>		